

評価領域	総合学科部
------	-------

重点目標	総合学科として生徒の自主性を育みつつ、学力向上と進路実現につながる教育を目指して、学科を円滑に運営し充実を図る。		P
現 状	個々の学力向上と進路実現のために、系列・科目選択指導を総合学科部と学年部が連携して丁寧に行っている。生徒の意志を尊重しつつもある程度の制約を加えた形の選択指導を行い、系列間の選択者数のアンバランスを解消している。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標達成のために適切な科目を選択させ、学力向上につながる調和のとれた時間割を作成する。</li> <li>・ 地域社会との連携を深め、本校総合学科への広く正しい理解を得る。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が自ら系列や科目を選択できるよう、ガイダンスの充実と指導の徹底を図る。</li> <li>・ 将来の職業選択や職業生活の基礎となる学習を、教育活動全体を通して行う。</li> <li>・ 外部との連携を深め、地域や中学生が総合学科の特徴について理解を深める機会を充実させる。</li> </ul>		
具体的な取組状況と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学前のオリエンテーションと入学後の科目選択ガイダンスを充実させ、適切な系列選択ができるための指導をした。また、中学校での高校説明会や体験入学を実施し、総合学科・系列への理解を図った。</li> <li>・ 農業系列選択者が例年になく多く、地域を支える農業への関心の高さがうかがえた。他の系列は、バランスのとれた人数となった。</li> </ul>		D
自己評価	B	<p>(根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 由利本荘市民まつり等、各種イベントに積極的に参加し、地域や企業と連携することにより、生徒の公共の精神を育み、職業観を養い、地域を支える自覚を高めることができた。</li> </ul>	C
外部評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 系列の特色を生かした活動で損路の方向性が定まるので、今後も生徒に様々な活動をさせてほしい。</li> <li>・ 生徒の活躍がケーブルテレビや新聞などで取り上げられ誇りを感じる。今後もメディアを活用して学校をPRしてほしい。</li> </ul>	C
<p>↑ 評価基準</p> <p>A : 重点目標に対して8割程度達成できた          B : 重点目標に対して6割程度達成できた          C : 重点目標に対して6割程度の達成状況であるが変化の兆しはある          D : 重点目標に対して4割程度の達成状況で不十分である</p>			
来年度に向けた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度は全国産業教育フェアが秋田市で開催される。このビックイベントに生徒を積極的に参加させ、生徒が新たな発見や感動を覚え、進路や職業に関する興味関心を高めることで、さらなる個性の伸長を図りたい。</li> <li>・ 情報視聴覚部や特活部と連携し、学習成果や部活動の様子をリアルに情報発信し、学校をPRしていきたい。</li> </ul>		A

評価領域	総務部
------	-----

重点目標	P T A役員会等を通じて地域・保護者との連携強化を図り、的確な情報発信に努める。		P
現 状	P T A活動の年間スケジュールの中で保護者との連携を積極的に図ろうと努めている。4月のP T A総会・各学年P T Aに始まり、6月の第1回P T A役員会開催後の通学域環境美化プランター設置、7月の各地区P T Aと西目駅での通学駅等状況視察、そして11月の新志芽祭における「餅つき」の準備などを雰囲気良く実施している。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新志芽祭におけるP T A主催事業に多くの役員の参加を達成する。</li> <li>・県高P連や本荘由利地域のP T A関連事業に積極的に参加する。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P T Aのオリジナル企画を役員全体で盛り上げようという意識を高めるために、特に三役（会長・副会長・母親委員）のリーダーシップ発揮をサポートする。三役会における事前打ち合わせはもちろん、役員による自発的な運営計画をバックアップしながら、協力を進める。</li> <li>・県外開催の大会、各種交流会、地元の連絡会議等への参加案内を適切に行いながら、常に役員との連絡を密にして出席を促していく。</li> </ul>		
具体的な取組状況と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新志芽祭の「餅つき」に向けて第2回三役会を開催し、積極的な議論を深めながら、準備体制を整えた。新志芽祭直前には「頭固め」会を行い、当日の段取りを確認して「団結」することができた。</li> <li>・役員のスケジュールも考慮しながら、文書での案内はもちろん、直接電話連絡をとって、貴重な事業への自主的な参加を求めた。</li> </ul>		D
自己評価	A	（根拠）新志芽祭に関しては、会長をはじめ三役メンバーを中心に、昨年度の実施計画を上回る準備が着々と進められた。役員相互の連携が十分機能しており、10月の成功は期待通りだった。各種事業への参加についても真摯に取り組まれていること、学校と保護者の一体感が強く感じられた。	C
外部評価	A	新志芽祭をはじめとして、各種P T A事業に参加する多くの役員の方々が子ども達のためという意識で頑張ってくださったことを強く感じた。また、分掌の活動が円滑に進められ、成果を上げていることを役員の皆様から評価され、さらに、儀式等に関する大きな期待をかけられていることをありがたく思う。学校側との連携が上手に結びついていることを知ることができ、実に良かった。	C
↑ 評価基準	<p>A：重点目標に対して8割程度達成できた</p> <p>B：重点目標に対して6割程度達成できた</p> <p>C：重点目標に対して6割程度の達成状況であるが変化の兆しはある</p> <p>D：重点目標に対して4割程度の達成状況で不十分である</p>		
来年度に向けた改善策	さらなる分掌活動の充実を期し、P T A行事等への保護者の積極的な参加、出席率の向上に向けた工夫（一斉メール等でのタイムリーな案内など）について考察し精進していきたい。また、地区P T Aの運営について検討に入り、各地区の代表者との連携を密にして、開催の是非を含めた新たなアプローチを行いたい。		A

評価領域	教務部
------	-----

重点目標	学習環境の整備と授業時数の確保に努める。		P
現 状	一昨年度までの反省から昨年度、授業交換や自習監督、自習のときの生徒の学習の仕方についての基本的なルールを作りその徹底を図った。昨年度はこのルールはほぼ適切な形で運用されていた。生徒は現状では落ち着いて学習している。		
具体的な目標	職員が自分の受け持っている授業に責任を持ち、授業交換や自習監督の依頼を行うルールを作成し、その運用を徹底する。 自習監督時の生徒指導のルールを定め、その指導を徹底する。		
目標達成のための方策	年次や出張等での授業交換・自習監督依頼のルールを作成し、全職員に連絡・徹底する。責任の所在をはっきりさせる。(本人・各教科・教務部) 自習監督時の指導のルールを定め、その指導を徹底する。自習時間での望まれる生徒の学習への取組及び態度について、学年部を通じて生徒に周知・徹底する。以後、問題のある生徒について、学年部、教務で状況を確認し、当該生徒を指導する。		
具体的な取組状況と達成状況	4月の職員会議で今年度の授業交換・自習監督依頼のルールと責任の所在を確認した。以後、不公平がないように教務で管理・運用にしている。 同じく4月に、生徒の自習への取組について、学年集会等を利用して、生徒に連絡してもらい、指導を開始した。		D
自己評価	B	(根拠) 授業や自習にきちんと取り組めない生徒を把握し、その取り組みについて指導・改善する体制を作り職員に周知するところまではできた。しかし、教員側から問題のある生徒の情報が出てきていない。実際に、問題のある生徒がいないのか、いるのにもかかわらず教員側が情報を出すことをためらっているのかは不明である。これからも情報収集していきたい。 後期に多少の自習が発生したが、組織としての取り組みは機能した。	C
外部評価	B	取り組みは機能しているようなので、このまま継続して生徒の学習、家庭学習、学習態度などの改善に努めてほしい。生徒の学習への取り組みは学校の基本となる事項なので、粘り強く指導してほしい。 生徒の将来のためになる、教育課程の作成をお願いします。	C
↑ 評価基準	A：重点目標に対して8割程度達成できた B：重点目標に対して6割程度達成できた C：重点目標に対して6割程度の達成状況であるが変化の兆しはある D：重点目標に対して4割程度の達成状況で不十分である		
来年度に向けた改善策	今年度の取り組みを来年度も継続する。生徒の授業の受け方、授業中の振る舞いや態度について、事前に生徒に正常な状態や指導・注意される状態を伝え、その後の状況を観察し、問題がある場合は指導する。 自習に対する体制も継続する。 教育課程については、毎年検証し改善していく。		A

評価領域	生徒指導部
------	-------

重点目標	基本的な生活習慣の確立 整容指導の徹底		P
現 状	全職員による毎朝の生徒昇降口での挨拶と整容の指導を、今年度も継続して行っている。整容検査を衣替え等の節目の時期を中心に年間7回実施し、身だしなみの指導をしている。携帯電話の使用については校内での使用を規制するとともに、「携帯電話セミナー」を開く等で使い方のマナーについて指導している。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整容指導や挨拶等に関する日常の指導を徹底する。</li> <li>・問題行動の未然防止に心がける。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師間で共通理解を図り、情報を共有して全職員で指導する体勢を整える。</li> <li>・各学年部や各分掌と密接に連携し、問題やその兆候があった場合は迅速に適切な対応をする。</li> <li>・家庭との連携を密にし、速やかに報告して協力しながら指導する。</li> </ul>		
具体的な取組状況と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の昇降口指導は概ね順調に実施された。</li> <li>・整容指導等において各学年部と情報を共有しながら実施できたが、再指導の対象となるものが毎回何人かいた。</li> <li>・問題行動等の際の家庭との連絡は密であったが、常に慎重な対応が必要であると感じさせられたケースもあった。</li> </ul>		D
自己評価	B	(根拠) 整容や挨拶等の状況から全体的には改善傾向にあると思われるが、ネット上のトラブルという現代的な事案等の問題行動が発生してしまった。モラルやコミュニケーション等について日常からしっかり指導する必要があると感じた。	C
外部評価	B	生徒たちは以前に比べれば落ち着いてきていると感じるが、挨拶に難のある子も一部に見られるので徹底するよう指導していただきたい。いじめについても深刻な事態にならないよう日頃から注意してほしい。携帯電話の学校内における保管の仕方は難しいものがあると思うが、生徒や家庭の不利にならず、かつ学校としてしっかり指導できるような状態に対応するようお願いしたい。	C
<p>↑ 評価基準</p> <p>A : 重点目標に対して8割程度達成できた B : 重点目標に対して6割程度達成できた C : 重点目標に対して6割程度の達成状況であるが変化の兆しはある D : 重点目標に対して4割程度の達成状況で不十分である</p>			
来年度に向けた改善策	挨拶や整容等の基本的な生活習慣の指導については、今後も重点指導事項として厳しい姿勢で臨んでいく。いじめに関してはまず校内外の体制をチェックして何よりも発生しないよう注意し、発生した場合は関係各所で連絡を密にしながら適切かつ迅速に対応する。携帯電話やネット関係では、啓蒙活動に力を入れるとともに、我々も必要な情報収集をする等の研修を怠らないようにする。		A

評価領域	特別活動部
------	-------

重点目標	望ましい集団生活を通し、心身調和のとれた発達と個性の伸長を図り、西目高校生としての誇りを持って校内外で活躍できる積極的態度を育てる。		P
現 状	部活動や生徒会活動および学校行事を通し、重点目標に即して少しずつ生徒の成長の跡がうかがえる。1年生の部活動加入率が例年に比べ若干低いが、文武両道「部活の西目」は健在であり、挨拶や整容面で校内外に爽やかな風を吹かせている。生徒会活動も綿密な計画と指導により、学校行事全般に大いに貢献している。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動と学習の両立</li> <li>・礼節の精神を育み、社会人やコミュニケーション能力を養う。</li> <li>・上位大会出場を目指し、学校の代表として日々精進する。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全部員講習会（共通取り決め事項等の把握と目標の省察）</li> <li>・顧問会議（共通理解と情報共有および指導徹底の申し合わせ）</li> <li>・学校行事を通し、集団活動の意義と協調性を育む。</li> <li>・各種ボランティア活動による地域貢献や社会奉仕の意義を育む。</li> </ul>		
具体的な取組状況と達成状況	特別活動全般において概ね達成感をもって遂行することができた。ボクシング部、弓道部のインターハイ出場や陸上競技部の東北大会出場などが際立った。他の部も次年度に期待したい。牽引役的に部活動生徒の校内外での挨拶や反応が爽やかであり、今後も更に全校生徒が自発的に望ましい集団生活を醸成するよう願う。		D
自己評価	A	(根拠) 職員の各指導に本校生徒として積極的態で生き生きと前向きに取り組んでくれた。少子化や女子化傾向にある昨今部員確保が課題となる。学校行事の集団活動等を通して協調性や帰校心が芽生えた感がある。更なる戦績向上を期待したい。	C
外部評価	B	概ね生徒保護者ともに学校行事や部活動について相応の評価をいただいた。活動の様子の一部が、メディアでの報道等により効果的にアピールされた。生徒の学校への要望が集約され生徒総会で答弁された内容を、保護者にも伝えて欲しいとの要望があった。	C
<p>↑ 評価基準</p> <p>A：重点目標に対して8割程度達成できた B：重点目標に対して6割程度達成できた C：重点目標に対して6割程度の達成状況であるが変化の兆しはある D：重点目標に対して4割程度の達成状況で不十分である</p>			
来年度に向けた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動と学習の両立（生徒の学習時間・休息時間の確保）</li> <li>・事故防止のための指導と環境整備</li> <li>・学校行事や部活動のタイムリーなメール発信やHPの活用（系列を含む＝情報視聴覚部や系列との連携）と由利本荘市、にかほ市の広報誌および新志芽通信の活用。</li> <li>＊年度早々全校生徒に写真画像のHPや報道の使用許諾の確認必要</li> </ul>		A

評価領域	進路指導部
------	-------

重点目標	総合学科の特徴を生かし、各学年の相応したキャリア教育等を通じ、すべての生徒の学力の向上と自己成長力の育成を図り、進路実現を目指す。		P
現 状	「産業社会と人間」や「新志芽学」など総合学科を生かした学習で、自らの進路について考える機会を多く設けているが、3年生になってから具体的に準備を始める場合が多い。オープンキャンパスなどに参加し、進路実現のために努力している生徒もいるが、自己理解や進路先の理解が不十分のため、進路選択で迷っている生徒もいる。		
具体的な目標	生徒一人ひとりが自らの進路を切り開いていく能力を育むよう、キャリア教育を推進し、学年・HR・教科・系列等が連携を密にし、3年間を通じた組織的・体系的進路指導の充実を図る。		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生に対する進路指導の充実</li> <li>・キャリアサポートの強化</li> <li>・学力向上対策の推進</li> <li>・系列と連携した進路指導體制の確立</li> <li>・1、2年次からの早期対策による進路意識の向上</li> </ul>		
具体的な取組状況と達成状況	3年生については、進路指導部による個人面談や、全職員による面接指導、進学者向けの添削指導など個に応じた進路指導を行うことができた。公務員については、業者を活用した補習を実施し、土木系公務員の合格者を出すことができた。1・2年生の進路意識を向上させるため、進路ガイダンスや模擬試験、公務員向けの補習を実施した。		D
自己評価	B	(根拠) 具体的な取り組みについては、学年部や系列と連携を取りながら、計画どおりに実施することができた。就職については、求人数が増加傾向だったこともあり、早い段階で内定をもらうことができたが、進学については、国公立大学への合格者を出すことができなかった。	C
外部評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立大学への入学者を出してほしい。西目高校には能力の高い生徒が入っている。1人ではなく、2人以上で競わせるようにするとよいのではないか。</li> <li>・困ったときの専門学校という指導をしないほしい。</li> <li>・伸びしろのある生徒を育ててほしい。</li> </ul>	C
<p>↑ 評価基準</p> <p>A：重点目標に対して8割程度達成できた B：重点目標に対して6割程度達成できた C：重点目標に対して6割程度の達成状況であるが変化の兆しはある D：重点目標に対して4割程度の達成状況で不十分である</p>			
来年度に向けた改善策	次年度は、大学の進学指導に力を入れていきたい。そのためには、学力向上のための補習や添削指導、進路意識向上のための進路ガイダンスや個別面談を、各学年部と連携をとりながら実施していく。 また、総合学科部と連携をとりながら、土木・農業科学・ビジネス会計系列選択者から、専門性を生かした大学進学者の増加をねらった指導を進めていきたい。		A

評価領域	農場部
------	-----

重点目標	地域連携を図り、本校の名称の入った商品の開発に努める。		P
現 状	本校で生産された農産物は、お米はJAへ全量出荷、野菜は本校職員への販売、花は近隣の小中学校等で販売している。		
具体的な目標	①酒米としての「良質米」栽培 ②秋田県奨励品種「つぶぞろい」の栽培確立 ③本校産のサツマイモを原料に商品化		
目標達成のための方策	①酒米の作付け講習会に参加 酒米はにかほ市の飛良泉酒舗へ全量出荷予定 ②「つぶぞろい」作付け者講習会に参加(全量JAへ出荷予定) ③サツマイモ栽培研究とともに、隣接しているハーブワールドに商品化の協力をお願いをする。		
具体的な取組状況と達成状況	①酒米の作付け講習会への参加 ②「つぶぞろい」作付け講習会への参加 ③サツマイモ「ベニハルカ」を1000本定植 ハーブワールドに協力依頼・承諾を得て、商品開発について話し合いを行った。		D
自己評価	B	(根拠) 「秋田酒こまち」・「つぶぞろい」共に初めての栽培であったが、明暗に分かれる結果であった。 サツマイモの商品開発については、商品開発は出来なかったが、地域を広げた販売経路を開拓することが出来た。	C
外部評価	B	「秋田酒こまち」については、栽培から日本酒の醸造過程にまで生徒が取り組むことができ、学校のアピールにも繋がったと思う。「つぶぞろい」については、本校田に合う栽培方法を見だし、お米甲子園受賞に繋がる取り組みをしてほしい。 商品開発については、今後も取り組んでほしい。	C
↑ 評価基準	A：重点目標に対して8割程度達成できた B：重点目標に対して6割程度達成できた C：重点目標に対して6割程度の達成状況であるが変化の兆しはある D：重点目標に対して4割程度の達成状況で不十分である		
来年度に向けた改善策	「秋田酒こまち」・「つぶぞろい」の栽培は、共に二年目となるので、今年度の栽培方法に加え、栽培講習会や農家視察に参加し、より質の高い米生産を目指していきたい。 サツマイモだけでなく、栽培している農産物の販売販路拡大を目指したい。また、農場での取り組みを系列以外の生徒等に知ってもらえるような取り組みをしたいと考えている。		A

評価領域	1年部
------	-----

重点目標	(1) 高校生らしい整容・態度を身につけさせる。 (2) 毎日の学習習慣を身につけさせ基礎学力の定着を図る。 (3) 自らの進路について考え、進路実現に向かって努力させる。		P
現 状	(1) 作文指導となった生徒も少なく、落ち着いている。 (2) 朝学習と週末課題の実施状況も特に悪くなく、順調である。 (3) 産業社会と人間の授業を通じて、進路研究を行っている最中である。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内・校外で、西目高校生としての自覚を持つ。</li> <li>・期限を守って提出する。</li> <li>・進路希望を確定していく。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題が発生する前に、クラス担任より注意喚起する。</li> <li>・朝学習は、副担任が監督し、出欠状況を確認する。また、週末課題は全員が提出するまで指導を続ける。</li> <li>・産業社会と人間における講話やガイダンスを通じて、進路希望を明確なものとしていく。</li> </ul>		
具体的な取組状況と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内・校外におけるルールについて確認事項とし、各教室に掲示している。</li> <li>・朝学習や週末課題の提出状況を記録し、全員提出している。</li> <li>・進路ガイダンスを例年より前倒しして、7月に実施し、進路について夏休みに話し合えるようにした。</li> </ul>		D
自己評価	B	<p>(根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導上の問題も無く、各クラスとも落ち着いたクラス経営ができるようになった。</li> <li>・産業社会と人間の授業を通して、より具体的な進路を考えられるようにしてきたが、全員には浸透しきれなかった。</li> </ul>	C
外部評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的にはではなく競争しながらお互いに高め合い、国公立への合格者を出してほしい。</li> <li>・週末課題提出率100%は素晴らしい。</li> <li>・特別活動でのボランティア等に意欲的に取り組んでいる姿を見て、将来に対する目標や方向選択に大きな影響を与えていると感じている。</li> </ul>	C
<p>↑ 評価基準</p> <p>A : 重点目標に対して8割程度達成できた          B : 重点目標に対して6割程度達成できた          C : 重点目標に対して6割程度の達成状況であるが変化の兆しはある          D : 重点目標に対して4割程度の達成状況で不十分である</p>			
来年度に向けた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向けた具体的な方策を考え実行していく。</li> <li>・生活面では、校内校外において西目高校生としての自覚を持ち行動できるようにしていく。</li> <li>・西目高校を自分たちが作り上げていくという気持ちを持たせ、何事にも積極的に関わりが持てるようにしていく。</li> </ul>		A



評価領域	2年部
------	-----

重点目標	(1) 高校生らしい整容・態度を身につけさせる。 (2) 毎日の学習習慣を身につけさせ基礎学力の定着を図る。 (3) 自らの進路について考え、進路実現に向かって努力させる。		P
現 状	(1) ほとんどの生徒は問題ないが細かい整容を指摘される生徒が若干いる。 (2) 週課題の提出状況や朝学の取り組みはよい。 (3) 新志芽学や授業の中で職業観、就業意識を培っている。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生らしい清潔感のある整容や態度を培う。</li> <li>・課題は全て提出し、進路実現に向けた基礎学力を定着させる。</li> <li>・進路実現に向けた取り組みをする。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年で統一して指導にあたり、職員間で生徒の情報を共有する。</li> <li>・課題未提出者に対し督促を行った。また、生徒の実態や授業の進度に合わせ朝学や週課題を出題してする。</li> <li>・進路ガイダンスの実施や新志芽学の時間を利用した進路学習を行う。</li> </ul>		
具体的な取組状況と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな整容の乱れであっても、見逃さず声をかけた。</li> <li>・朝学や週課題を継続して出題した。</li> <li>・小論文模試の実施や求人票の見方などを実施した。</li> </ul>		D
自己評価	B	<p>(根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽微なものがほとんどだが、注意すればすぐに直す。</li> <li>・朝学や週課題は取り組んでいる。</li> <li>・作文と小論文の違いを意識しながら小論文に取り組んだ。</li> </ul>	C
外部評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の習慣化や進路指導に力を入れてほしい。</li> <li>・学校行事は自発的に行われている。</li> <li>・整容もよい。</li> </ul>	C
<p>↑ 評価基準</p> <p>A : 重点目標に対して8割程度達成できた          B : 重点目標に対して6割程度達成できた          C : 重点目標に対して6割程度の達成状況であるが変化の兆しはある          D : 重点目標に対して4割程度の達成状況で不十分である</p>			
来年度に向けた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自己実現に向け、生徒への的確な情報提供と学習・礼法等の指導に取り組む。</li> <li>・学校行事を通して、生徒の自主的な活動を促進する。</li> <li>・よりよい人間関係を築かせ、社会人に向かう自覚を養わせる。</li> </ul>		A

評価領域	3年部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内・校外でルールを守った生活をさせる。</li> <li>・授業を中心として、朝学習、家庭学習など学習活動の徹底をはかり、進路目標を達成できる学力を身につけさせる。</li> </ul>		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの生徒はルールを守った生活をしているが、整容等において一部の生徒がまだできていない。</li> <li>・大部分の生徒は進路を意識して授業に取り組み、学力向上の意識を持っているが、ごく少数の生徒はその自覚が足りない。</li> </ul>		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年部全員で共通理解をして指導の一体化をはかる。</li> <li>・教科担任と連携を取りながら、取り組み状況のよくない生徒に指導していく。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<p>進路実現のために何をやらなければならないのか確認させる。授業が一番大切であり、さらに家庭学習を集中して行うことで学力をつけていかねばならない。各教科に宿題を出してもらうように依頼し、生徒に勉強させていく。進路希望を確定させてできるだけ早く、本気で取り組むように仕向けていく。</p>		
具体的な取組状況と達成状況	<p>集会や HR 等でルールを守ることの大切さを伝え、できていない場合には指導している。授業の大切さも集会や HR 等でその重要性を話してきた。大部分の生徒には話していることが伝わっているようだが、ごく少数の伝わらない生徒へは上の目標や方策に書いたことを実施していかねばならない。</p>		D
自己評価	B	<p>(根拠)</p> <p>ルールを守ることや授業、朝学習の取り組みに関してはほとんどの生徒において達成されているため</p>	C
外部評価	B	<p>進路実現をいう大きな目標を達成できたのはよかったのだが、国公立大学への進学者がいなかったのが残念である。国公立大学への進学希望者の育成し複数人で競わせることで、数名の合格者を出してほしい。また、あいさつは校内だけでなく校外でもできるようにしてほしい。</p>	C
↑ 評価基準	<p>A : 重点目標に対して8割程度達成できた                  B : 重点目標に対して6割程度達成できた                  C : 重点目標に対して6割程度の達成状況であるが変化の兆しはある                  D : 重点目標に対して4割程度の達成状況で不十分である</p>		
来年度に向けた改善策	<p>新1年部を担当する場合は、挨拶等の礼儀作法をしっかりと行うことができる生徒を育てたい。学年部の共通理解を確立し、しつけ指導を徹底する。また、進路については専門系列の生徒のトップ層の中から進学希望者を育成する。そのためには、学年部と専門系列との協力体制を作っていかなければならない。また、学力においても3年間を見据えた指導をしてもらえるように各教科と連携していく。</p>		A